

令和7年度 奈良県知事賞

地方の課題と税への向き合い方

育英西高等学校 2年 豊田 彩音

この夏、私は奈良県の高校生議会に育英西高校代表として参加した。普段はなかなか関わることのない政治や行政について、実際に県の職員の方々や他の高校生と意見を交わす中で、奈良県には多くの課題があることを知った。たとえば、奈良県は県外就業率が他の都道府県と比べて非常に高いこと、学校の机が狭い、冷房がついていない教室がある、などの教育関係のこと、過疎地域にスーパーなどの日用品を買う場所が少ないとこと、道路や道がきちんと整備されておらず、渋滞が日常的に起きたり、自転車通学の人が危険な目に合っていることなどだ。

私は議会でこれらの課題を知り、地方税を上手く活用することで解決できることが多いのではないかと考えた。そこで私は、今の奈良県が地方税をどのように使っているか調べてみることにした。奈良県の公式ホームページや、県の予算資料などを読み進めるうちに、地方税が私たちの生活に密接に関わっていることが分かってきた。たとえば、地元の小企業を活性化させるために、税金から企業に給付金を出したり、県立の高校に冷房の設置を急速で進めたり、「ならの道リフレッシュプロジェクト」と名付けて、令和六年から令和十年にかけて、奈良県予算の道路整備の総事業費を上げて、奈良の道が整備されるようにしたりと、私たちが安心して暮らすために必要なサービスの多くが既に地方税によって支えられていた。また、限られた税収の中で、どの分野にどれだけのお金を使うか決めるのはとても難しいことだと感じた。高齢化による医療や福祉への支出だけでなく、教育やまちづくりにも力を入れなければならぬ。すべてを同時に充実させるのは簡単ではないが、それでも行政はできる限り多くの人にとって暮らしやすい社会を実現しようと努力していることが伝わってきた。

高校生議会での経験と地方税についての学びを通して、これからは税金の使い道にもっと目を向けるべきだと思うことができた。そして、奈良県をよりよくするためには、行政任せにするのではなく、私たち一人ひとりが課題に関心をもち、地域の未来について考える姿勢が大切なのだと思うようになった。私が社会に出て、税を払うようになったら、その使い道をしっかりと調べて、奈良県に役立つ人になりたい。